

特集

地震災害に備えよう

宮城県沖地震から今年で31年目。昨年の6月14日に発生し、多数の死傷者・行方不明者を出した「岩手・宮城内陸地震」は記憶に新しいところです。「いざ」というとき、自分や家族の命を守り、被害を最小限に食い止めるために、わたしたちはどう備えればいいのか。



6月12日は県民防災の日



宮城県北部連続地震で倒壊したブロック塀【宮城県提供】

記憶に新しい 大規模地震災害

6月12日は「県民防災の日」です。今から31年前の昭和53年6月12日に発生した宮城県沖地震は、市内に大きな被害をもたらしました。当時の記憶が薄れつつある中、平成15年5月26日の三陸南地震、同年7月26日の宮城県北部連続地震、そして、昨年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震では、地震災害の恐ろしさをあらためて認識させられました。

特に、昨年の6月14日午前8時43分頃に発生した「岩手・宮城内陸地震」では、震度6強を観測した栗原市を中心に、各地で土砂崩れや家屋の倒壊などが発生し、13人の尊い命が奪われたほか、行方不明者10人、負傷者451人を数える大規模な地震災害となりました。

市内では、地震によって2人が骨折などの重症を負ったものの、幸い命に別状はなく、最小限の人的被害

にとどまりました。

しかし、この地震により停電や水道管の破損、壁の亀裂、一般住宅のブロック塀損壊など、各地区で物的被害が多く発生しました。

この地震による火災などの二次災害は発生しませんでした。これは宮城県沖地震を教訓とした「地震のときには火を消す」という防災意識が、避難訓練などにより広く浸透してきたからだと考えられます。

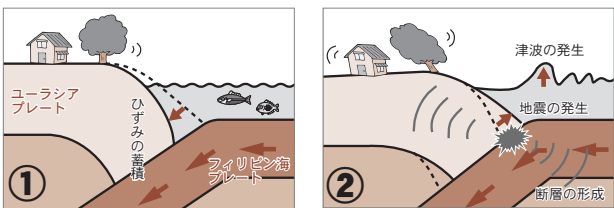
宮城県沖地震は30年以内に99%の確率で発生

宮城県沖では、太平洋プレートが陸側のプレートの下に沈み込み、陸側のプレートがそのひずみに耐え切れなくなり、元に戻ろうとして反発することにより地震が発生します。

また、今年4月には宮城県南部で平成17年8月に最大震度6弱を記録した「8・16宮城地震」の震源付近の海底が、最近2年間で西北西に約13センチ移動しているとの観測結果が海上保安庁から発表されています。

これまでの宮城県沖地震の発生状況をみると、最短で26年の間隔で地震が発生しています。前回の宮城県沖地震から31年を経過した今、今後30年以内に地震が発生する確率は99%といわれており、大地震は明日に発生してもおかしくない状況にあります。

【図1】地震の発生する仕組み



海側のプレートが年間数cmの割合で陸側のプレートの下に滑り込み、陸側のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。ひずみの蓄積が限界に達したとき、大陸側のプレートが跳ね上がり、地震が発生する。その際、津波が発生する場合もある。

地震の際に的確な対応をするためには

では、実際に地震が発生したときに、あわてずに的確に行動するためには、どのような準備をすればよいのでしょうか。

まず、地震に遭遇しても冷静さを失わず行動することが重要です。そのためには、自分のおかれた状況を正確に把握することが重要であり、例えば、夜間の就寝中に地震が発生した場合に備えて、常に近くに懐中電灯を置いておくなどの準備が大切になります。

その上で、下に示す地震発生時行動マニュアルを参考に自分や家族の安全確保、二次災害の防止などの措置をとってください。

《地震発生時行動マニュアル》

時間の流れ	地震発生	1~2分	3分	5分	10分~
	最初の大きな揺れは約1分間	揺れがおさまったら	みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ	ラジオなどで正しい情報を収集	協力して消火活動 救出救護活動を
とるべき行動	<ul style="list-style-type: none"> ●まず身を守る 丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠す ●素早く火の始末 ガスの元栓を閉めて、出火を防止する ●脱出口の確保 建物がゆがみ開かなくなる場合に備え、ドアや窓を開ける 	<ul style="list-style-type: none"> ●火元を確認 火が出たら、落ちついて初期消火をする ●安否を確認 倒れた物の下敷きになっていないかを確認する ●靴を履く ガラスの破片が散乱しているので、靴や厚手のスリッパを履く 	<ul style="list-style-type: none"> ●負傷者の確認 負傷者が出た場合は、みんなで声を掛け合い協力して救出・救護を行う ●避難の際は ガスの元栓や電気のブレーカーを切り、屋根瓦やブロック塀などに注意して避難する ●余震に注意 余震による二次災害に注意する 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しい情報を 報道機関や市区町村、防災機関、自主防災組織などの情報を確認し、デマに惑わされないように注意する 	<ul style="list-style-type: none"> ●火災になったら 周りに大声で知らせ、消火器やバケツリレーなどで消火する ●近所で助け合う 災害弱者の安全確保や初期消火を協力して行う ●避難所では 避難所ではリーダーを決め、連絡体制をつくる